



つながる思い ～中学生と学校運営協議会委員の交流～

1月18日(水)高橋中学校で、第2回学校運営協議会「第2学年授業参観」が行われました。2年生の生徒はこれまで、総合的な学習の時間に自分の将来について考え、地域の財産や魅力を生かしながら「地域で働くこと」をテーマに学習してきました。豊かな自然や名産である紅花、史跡、食材などの地域の宝と現代的なニーズを組み合わせることで、地域への集客や経済の発展に結びつけようと考え、学年の仲間のほかに学校運営協議会の委員に向けて発表しました。中学生のバラエティに富んだアイデアと地域に対する愛情にあふれた発表に、委員のみなさんも深くうなずいていました。

委員は中学生に対して、地域への思いや子どもたちへの思い、アドバイスを伝えました。この交流によって「地域の未来をつくりたい」という中学生と委員の思いがつながりました。



「こどものまち」という地域学校協働活動

「こどものまち」をご存知ですか？主に地域等で行われている「子どもたちの、子どもたちによる、子どもたちのためのまちづくり」です。仙台市立生出小学校では、学校を舞台にして、全児童が生活科及び総合的な学習の時間に取り組みました。

～仙台市立生出小学校における「こどものまち」～

- 学校内を「一つの町」として、子どもたちがさまざまなお店を出して仕事をしたり、買い物をしたり、遊んだりするすてきな町です。これまでの地域での体験や教科の学習、スチューデントシティや外部講師のまちづくり講座の経験を活かして計画しています。
- 町の中には店だけでなく市役所もあり、「町としての運営」を実施しています。
- 参加者全員に「住民登録」や「納税」をしていただくなど、実社会にも通じる体験活動をします。
- 3～6年生は従業員として働いたり、お客として消費活動を行ったりします。就業中は、言葉遣いや接客態度などにも気を付けて活動します。1～2年生は、町を明るく元気にするために、装飾などを行います。
- 「こどものまち」は、出店内容から子どもたちが話し合い、運営をしています。「成功体験」だけでなく、「失敗から学び、粘り強く取り組む経験」ができる内容になっています。

12月13日（火）に生出小学校を訪問し、「まち」の発表の様子を見てきました。子どもたちは市長や店員になってお客さんを迎え、時にはお客さんになって夢中で楽しんでいました。また、保護者や学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、中学生、たくさんの地域住民が「お客さん」として参加していました。「こどものまち」は子どもたちが学ぶことに夢中になり、地域の活性が期待できるとても魅力的な活動です。

学びのフィールドを広げる～地域における地域学校協働活動～

学校には「学校だからできる学び」、地域には「地域だからできる学び」があります。子どもたちは学校や地域で学び、自分の思いや願いを実現しながら成長していきます。「地域だからできる学び」を学校運営協議会で話題にしてみてもいいでしょうか。

全国各地では、地域が主体となり、地域学校協働活動推進員のコーディネートによって「放課後子ども教室」や「地域未来塾」などの地域学校協働活動が行われています。



R4. 「山形市体験子ども教室」

○放課後子ども教室とは…

放課後や週末等において、学校の余裕教室等を活用して全ての子供たちの安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する放課後等支援活動。

○地域未来塾とは…

児童・生徒に対して、地域と学校が連携・協働して行う放課後等の学習支援。